



「普通という財産」

昨年あたりから「30代」がなにかと騒がしいような気がします。女性でいえば「負け犬論争」。30代になり結婚も出産もしていない女性を「負け犬」と表現したことによって起こった賛否両論であります。半負け犬でありまさに30代真っ只中という私も同僚や友達の間で話題にしておりました。いい悪いではなく、男や女と同じような意味で「負け犬」と「勝ち犬」というカテゴリー分けをただけなのに「負け犬」という耳ざわりの悪さから嫌悪感を持った方も多かったのでしょうか。

私としては「負け犬の遠吠え」を書いた酒井順子さんは好きな作家さんでもあるので、「負け犬」という表現の仕方は『オモシロイ』と単純に思っておりました。（ちなみに酒井さんの文章は生活感があるところがいいと思うのです。）それから男性でいえばパツと思ひ浮かぶのは楽天の三木谷社長でしょうか。30代勝ち組の代表選手的存在でもあります。インターネットビジネス・本社は六本木ヒルズ内・クラブサッカーチームやプロ野球球団のオーナーとどこを切り取ってもキラキラした存在です。とキラキラした30代がいる反面、30代がおこした犯罪も多いように思うのです。ニュースで報道されるわけのわからない、理解できない犯罪の凶悪犯に30代が多いような気がします。昨年未逮捕された奈良県女児殺害の犯人も30代そして、今年の2月4日に起こった愛知県イトーヨーカドーの乳児刺

殺事件の犯人もやはり30代でした。そして殺された赤ちゃんのお父さんが犯人と同じ年であったことに非常に複雑な思いです。

犯罪に至るまでにはそれぞれの生きてきた家庭環境はもちろん精神状態などあらゆる問題がほどけない糸のように絡まっていると思いますが、なぜこれほど30代が混沌としているのでしょうか？30代といえば買い手市場のバブル全盛期に社会人となりました。今では考えられないことですが、大学4年の時などは面接に行った会社から交通費や日当と頂き、それがいいおこづかいになっていたという時代ですから。が・・・入社して数年後にはバブル崩壊、企業は緊縮節約モード、はたまたリストラ、倒産とジェットコースターのような社会情勢を20代に体験したという人も多いと思います。年功序列の崩壊とともに実力成果主義の21世紀がやってきました。逆境をバネにまたプラスにして30代にして企業家として成功した人と全てを失って何もできない人との差が大きいのが今の30代なのではないかと思うのです。

「勝ち組」「負け組」という二極化の表現が様々な場面で見られます。昨年12月にあいついで発表されたOECD国際学習到達度調査とIEA学力調査の結果によると、日本の子供たちの学力低下が強調されましたが、その内容を詳しくみても子供たちのレベルが下がっているのではなく優秀なできるといわれる（最高水準の点数

を獲得)生徒の比率は前回とほとんど変わらないの対して、いままで「普通」にできていた中間層の子供たちが「できない」の層に吸収されてしまっているということがはっきりしているというのです。

ここにも「勝ち組」と「負け組」が明確に現れています。できるならば、「勝ち組」にと思ふ反面、「勝ち組」でも「負け組」でもない中間層『普通組』というのもいい

なあと最近感じます。そう『普通組』だってもっと市民権をもってもいいはずです。子供の頃母がよく言っていました「普通に育ててね。元気なら普通でいいのよ」。最近になって母の言っていた「普通でいいのよ」というこの言葉の温かさが“じわー”ときます。「普通」に生きるというのがとても難しい時代になってきたのを少し悲しく感じます。

お す す め 取材日記

「洲崎寺」

牟礼町浜北にある、高野山真言宗のお寺です。牟礼町といえば「源平合戦ゆかりの地」今年は大河ドラマ『義経』もはじまり牟礼町も活気づいています。そんな牟礼町を訪ねるときぜひ立ち寄っていただきたいお寺です。

源平の歴史もよくわかりますし、なんととってもすごいのはお庭が牟礼町のジオラマとなっています。石庭風となっており、牟礼の地形はもちろん「扇の的」や「船かくし」など源平ゆかりの地が石などで見事に表されていますので、一見の価値ありですよ。もちろんお参りも忘れずに！



お寺の様子



源平合戦の歴史がわかるコーナー



石庭・牟礼のジオラマ